

\*2008年5月改訂（二部、第3版、販売名の追記）  
2005年10月改訂（第2版）

# カルシウム剤

日本薬局方

## \* 塩化カルシウム水和物

\* 塩化カルシウム「ヤマゼン」

日本標準商品分類番号	873215
承認番号	16100AMZ01246000
薬価収載	1971年11月
販売開始	1971年11月
再評価結果	1986年12月

貯法等 保存条件：室温保存  
容 器：気密容器  
「取扱い上の注意」参照

### 【禁忌】（次の患者には投与しないこと）

- (1) 高カルシウム血症の患者〔高カルシウム血症を悪化させるおそれがある。〕
- (2) 腎結石のある患者〔腎結石を助長するおそれがある。〕
- (3) 重篤な腎不全のある患者〔組織への石灰沈着を助長するおそれがある。〕

### \*【組成・性状】

組成：本品1g中、日本薬局方 塩化カルシウム水和物 1gを含有する。

性状：本品は白色の粒又は塊で、においはない。

### 【効能・効果】

低カルシウム血症に起因する下記症候の改善

テタニー、テタニー関連症状

### \*【用法・用量】

塩化カルシウム水和物として、通常成人1回1～2gを約5%水溶液にして1日3回経口投与する。

なお、年齢、症状により適宜増減する。

### 【使用上の注意】

#### 1. 慎重投与（次の患者には慎重に投与すること）

- (1) 活性型ビタミンD製剤を服用している患者〔高カルシウム血症があらわれやすい。〕
- (2) 強心配糖体の投与を受けている患者〔強心配糖体の作用を増強するおそれがある。〕
- (3) 腎不全を有する低カルシウム血症の患者〔アシドーシスを促進する。〕
- (4) 高カルシウム血症があらわれやすい病態の患者

#### 2. 重要な基本的注意

- (1) 長期投与により血中及び尿中カルシウムが高値になることがあるので、長期投与する場合には定期的に血中又は尿中カルシウムを検査することが望ましい。また、高カルシウム血症があらわれた場合には投与を中止すること。
- (2) 本品は局所刺激作用を有し、胃腸粘膜を刺激するので、牛乳などの保護剤と共に投与すること。多量の牛乳との併用は、牛乳アルカリ症があらわれることがあるので注意すること。また、経管投与は行わないこと。

#### \*3. 相互作用

併用注意（併用に注意すること）

薬 剤 名 等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
テトラサイクリン系抗生物質 ミノサイクリン ドキシサイクリン テトラサイクリン等 ニューキノロン系抗菌剤 シプロフロキサシン ノルフロキサシン トスフロキサシン等 リン酸エストラムスチンナトリウム エストラサイト ビアセチル プロエスタ <u>骨代謝改善剤</u> エチドロン酸二ナトリウム <u>アレンドロン酸ナトリウム水和物</u> <u>リセドロン酸ナトリウム水和物</u>	これらの薬剤の効果が減弱するおそれがあるので、投与間隔をできるだけあけるなど注意すること。	カルシウムがこれらの薬剤と難溶性のキレートを形成し、これらの薬剤の吸収を阻害すると考えられる。
多量の牛乳	牛乳アルカリ症があらわれることがあるので多量の牛乳との併用は避けること。	腸管からのカルシウム吸収が増大する。

薬 剤 名 等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
強心配糖体 メチルジゴキシン ジゴキシン ジギトキシン等	強心配糖体の作用を増強し、徐脈、心室性期外収縮、房室ブロックなどの中毒症状を誘発するおそれがある。	カルシウムは強心配糖体の心筋収縮力増強作用を強める。
ポリカルボフィルカルシウム	(1) 高カルシウム血症があらわれるおそれがある。 (2) この薬剤の作用が減弱するおそれがある。	(1) この薬剤はカルシウムを含有（ポリカルボフィルカルシウム1.0g中にカルシウムとして約200mg含有）するため、併用するとカルシウムの過剰摂取となる。 (2) この薬剤はカルシウムが脱離して薬効を発揮するが、カルシウムとの共存下では再結合により薬効が減弱する。

#### 4. 副作用

本剤は使用成績調査などの副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。

種類	頻度	頻 度 不 明
長期投与		高カルシウム血症、結石症
代謝異常		アシドーシス
消化器		食欲不振、便秘等

#### 5. 高齢者への投与

一般に高齢者では生理機能が低下しているので減量するなど注意すること。

#### 6. 適用上の注意

本品の水溶液は、炭酸、クエン酸、シュウ酸、リン酸、酒石酸などの塩類と反応して沈殿を生じることがあるので、混合を避ける。

#### 【薬効薬理】

カルシウムは生命諸現象の維持に重要な役割を持つ無機物質で、大部分骨及び歯牙の構成成分として存在し、その他血漿などの細胞外液に含まれる。カルシウムイオンは血液凝固因子としてトロンボキナーゼの活性化に作用すると共に、生体膜の透過性保持に役割を演じ、その減少は透過性を増大させ、特に末梢血管での出血をきたす。また骨の形成、維持、修復などに必須の役割を果たしているほか、神経及び筋の興奮性の調節など多くの複雑な生理学的過程に関与している。カルシウムイオンは神経や骨格筋の興奮を鎮め、低カルシウム血症によって起こるテタニーを改善する。鉛中毒、マグネシウム中毒の治療や妊産婦の骨軟化症に対するカルシウムの補給にも用いる。

#### \*【有効成分に関する理化学的知見】

一般名：塩化カルシウム水和物 (Calcium Chloride Hydrate)

分子式：CaCl<sub>2</sub>・2H<sub>2</sub>O

分子量：147.01

性状：本品は白色の粒又は塊で、においはない。水に極めて溶けやすく、エタノール(95)にやや溶けやすく、ジエチルエーテルにほとんど溶けない。本品は潮解性である。

#### 【取扱い上の注意】

本品は潮解性であるので、吸湿に注意して取り扱い、使用後は速やかに容器の閉栓をすること。

【包装】 69.6g×48

#### \*【主要文献】

第15改正日本薬局方解説書(2006) 廣川書店

【文献請求先】 山善製薬株式会社 学術室 TEL 06-6231-1821 FAX 06-6231-1824

〒541-0045 大阪市中央区道修町2丁目2番4号



販売

**NIPRO**

ニプロ株式会社  
大阪市北区本庄西3丁目9番3号

製造販売元



**山善製薬株式会社**

大阪市中央区道修町2丁目2番4号